

講習の名称：きこえに障害のある子どもへの支援

担当講師：金澤 貴之（教育学部教授）

講習開講日：2019年8月18日（日）

時間数：6時間

主な受講対象者：特別支援教育に関心がある全教諭，養護教諭

キーワード：聴覚障害，インクルージョン，コミュニケーション，障害認識，アイデンティティ

講習の概要：聴覚障害の早期発見や補聴機器の改良等もあり、小・中学校で学ぶ聴覚障害児が増えている。難聴学級や通級指導教室での支援を受けている子どももいるが、中には十分な支援を受けられないまま通常学級での授業を受けている子どももいる。「きこえに障害がある」といっても、障害の種類や程度によってその状態はさまざまである。聴覚障害児が小・中学校で学ぶ場合に、どのような支援が必要なのかについて平易な言葉で解説する。

講習の展開：

- 第1時限：「聴覚障害」とはどのような障害か？
- 第2時限：聴覚障害児のインテグレーションの実態
- 第3時限：アイデンティティの形成と「障害認識」
- 第4時限：問題の本質に立脚した支援の方法を考える

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：特になし。ただし、

「群馬県における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」を各自入手（ダウンロード）し、事前に目を通しておくこと。

<http://www.pref.gunma.jp/contents/000367472.pdf>

また、下記の参考文献について、インテグレーションに関する章を中心に目を通しておくことが望ましい。

授業の形式： 講義形式。

履修認定試験： 論述形式の筆記試験（ノートと配付資料は持ち込み可）。講義を通して受講者が通常の小・中学校で聴覚に障害がある子どもへの支援の方法について、どのように理解をし、考察を深めたかを問いたい。

テキスト・参考文献：

参考文献として

- ・ 上農正剛『たったひとりのクレオール ―聴覚障害児教育における言語論と障害認識』ポット出版，2003年
- ・ 中野善達・根本匡文編『改訂版 聴覚障害教育の基本と実際』田研出版，2008年
- ・ 金澤貴之『手話の社会学―教育現場への手話導入における当事者性をめぐって』生活書院，2013年